

令和7年度第1回宇部市環境審議会議事録

日時：令和7年11月7日(金) 13時30分～15時00分

場所：宇部市立図書館2階 講座室

1 報告事項（事前協議に関する報告）

（1）異常排水対策設備に伴う環境汚染の未然防止対策について

2 報告事項（環境事故等に関する報告）

（1）凝集フロック（中和滓）の排出事故について

（2）13号セメントサイロからのセメント粉の飛散について

3 出席者（敬称略）

<委員>

市 民：加藤泰生、熊毛千恵

学識経験者：桑原亮一、樋口隆哉、柳由貴子、山本浩一

企業代表者：佐藤敬二、原本充

民間団体：竹重真由美、殿河内誠、吉井正文

<宇部市>

市民環境部：床本部長、上田次長

環境政策課：田辺課長、西岡副課長、岡係長、係員2名

4 議事概要

<事務局>

宇部市環境審議会条例第5条第3項の規定により、本日の会議が成立していることの確認（委員数16名に対し過半数の11名参加。）。

配布資料の確認。

事業所の人事異動等に伴う委員交代及び役職継承の紹介。

宇部市小学校校長会

（前）川本朋子 委員 → （新）浦野ひとみ 委員

セントラル硝子株式会社 宇部工場 工場長

（前）森野譲 委員 → （新）佐藤敬二 委員

UBE株式会社 宇部ケミカル工場 工場長

（前）雪本和則 第1副会長 → （新）原本充 第1副会長

<会長あいさつ>

本審議会には宇部方式の理念を引継ぎ運営されている。熱心な審議をお願いしたい。

異常排水対策設備に伴う環境汚染の未然防止対策について

<UBE株式会社>

資料1に基づき説明

<委員>

異常排水が貯留水路に貯留された際、これを希釈するために十分な量の用水はあるか。

<UBE株式会社>

十分にあると考えている

<委員>

遮断弁が完全に閉まっているかどうかの確認を取る必要はないか。弁の信頼性が重要と思い申し上げた。

<UBE株式会社>

試運転で確認するが、実際の運用時では地中からの水の浸透や、貯水位置が海水面より下にあることから、常に乾いた状態でないと見込まれ、弁から水が漏れているかどうか分からないという問題点がある。定期検査で確認を補いたい。

<委員>

貯留水路は新設か既設か。

<UBE株式会社>

新設である。

<委員>

貯留容量から見て、5分間隔の分析で大丈夫か。

<UBE株式会社>

10～12分の滞留に耐える設計となっており、対応可能と考えている。

<委員>

水路の弁の開閉状況について伺いたい

<UBE株式会社>

通常はバイパスの弁のみ閉まっている。異常排水が発生した際は水路出口の弁が閉まる。異常排水の流出が止まれば入口の弁を閉めバイパスの弁を開ける。入口と出口の弁が閉まった水路から異常排水をタンクに全て汲み上げた後、入口と出口の弁を開ける。

<委員>

バイパスを流れる排水の計測は行うのか。

<UBE株式会社>

計測する。

凝集フロック（中和滓）の排出事故について

<チタン工業株式会社>

資料2に基づき説明

<委員>

口頭説明中にあった「校正板」とは何か。

<チタン工業株式会社>

濁度計は光を照射して、その反射を計測する仕組みだが、照射した光を反射させる板が「校正板」。

<委員>

濁度計の差異は校正板の取り付け位置がずれたことなどが原因か。

<チタン工業株式会社>

照射する光の出力制御による。一定の出力が維持できていれば問題ない。光源の出力を監視することで濁度計の差異の発生に対応している。

<委員>

インターロックを解除したのはテスト中だったからか。通常操業時にもしばしば解除していたのか。

<チタン工業株式会社>

テスト期間であったため。通常は解除していない。

13号セメントサイロからのセメント粉の飛散について

<UBE三菱セメント株式会社>

資料3に基づき説明

<委員>

天板の重さはどれくらいか。0.2気圧で浮くということは軽いのか。

<UBE三菱セメント株式会社>

約200t。

<委員>

天板は可動か固定か。

<UBE三菱セメント株式会社>

固定。

<委員>

空気輸送配管の曲がり角はきついか。

<UBE三菱セメント株式会社>

山形の構造にしており、曲がり角は45°以上確保している。

<委員>

安全弁の設置は天板を浮き上がらせないようにするためという理解でよいか。

<UBE三菱セメント株式会社>

その通り。

<委員>

閉塞の有無の点検において、配管内の圧力をチェックする方法はあるか。

<UBE三菱セメント株式会社>

圧送管の元圧とバグフィルター付近の圧力を確認し、差圧を管理している。

<委員>

集塵配管が閉塞することはよくあるのか。

<UBE三菱セメント株式会社>

本件配管がきれいな状態からどれくらいの期間で今回までの閉塞に至ったかは分からない。

<委員>

サイロの損傷はいつの段階でのものか。

<UBE三菱セメント株式会社>

事故前からか、天板の浮き上がりに伴うものかわからない。

<委員>

再発防止策として、天板の損傷と耐圧についてどのように考えているか。

<UBE三菱セメント株式会社>

安全弁設置による圧抜きと、天板と本体の固結力強化措置を検討している。

<委員>

安全弁は今回の事故と同様の圧に耐えられるか。

<UBE三菱セメント株式会社>

耐えられるよう検討している。

<委員>

配管閉塞の点検を打音によって行うとあったが、音の判断のトレーニングはどのようにしているのか。

<UBE三菱セメント株式会社>

閉塞が進むと打音が鈍い音になる。経験豊富なベテランと新人と一緒に作業を行い、経験を継承している。

<委員>

日が経つにしたがって、だんだん閉塞していくものか。

<UBE三菱セメント株式会社>

そう考えている。

<委員>

点検にあたって正常な箇所の方が多いと思うが、異常な音のサンプルを経験の浅い者に聞かせ記憶させる教育を行うべきではないか。

<UBE三菱セメント株式会社>

他にも閉塞しやすい箇所があり、そういった状況を活用しトレーニングできていると認識している。

事務局より

<事務局>

委員の皆様におかれては、貴重な御意見をいただいたこと、また、先日開催した、工場見学に多くの御参加をいただいたことに御礼を申し上げます。

これから冬が深まると、急激な気温低下を原因とした凍結などに伴う環境事故の発生が心配される。企業の皆様におかれては、備えは十分であるとお察しするが、万全を期し、御安全に操業していただくようお願い申し上げます。

了